令和４年９月 14 日	
所　属	文化振興課
所属長	曽田　研之介
電　話	06－6489－6385

A-LAB Exhibition Vol.35「目で目は見えぬけれども」を開催

尼崎市は、10 月 15 日からアートスペース「A-LAB」（えーらぼ）において、グループ展「目で目は見えぬけれども」を開催します。“私たちは普段自分の目で何かを見ているようで、自分の目だけで何かを捉えるのは難しい。”本展は、視覚をテーマにした展覧会です。本展を通じて、自分と世界のつながりや、目に見えるもの以上のなにかを感じていただければ幸いです。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、別紙１のとおり対策を行います。

１　概要

会　期：令和４年 10 月 15 日㈯～12 月 11 日㈰
会　場：A-LAB（尼崎市西長洲町２-33-１）
入場料：無料
時　間：（平日）午前 11 時～午後７時　（土・日・祝）午前 10 時～午後６時　※火曜日休館
出展者：加納俊輔、堀川すなお、吉野もも
問合せ：尼崎市文化振興課（平日のみ午前８時 45 分～午後５時 30 分）
　　電話　06-6489-6385　　FAX　06-6489-6702
主　催：尼崎市
協　力：Maki Fine Arts、rin art association、㈱ベイ・コミュニケーションズ
フライヤーデザイン：貞雄大

２　関連イベント（トークイベント）について

美学・感性学を専門とする近畿大学　文芸学部　文化デザイン学科准教授の岩城覚久氏と、追手門学院大学　社会学部　社会学科教授の松谷容作氏をゲストに迎えて、出展作家とのトークを実施します。各々の作品やゲストの研究分野について紹介いただいた後、視覚を通じた感性のあり方やその変化についてディスカッションいただく予定です。

日　時：11 月 27 日㈰　午後２時～午後４時
定　員：先着 15 名
申込方法:「イベント名（A-LAB トーク）、氏名、年齢、電話番号、人数」を明記の上、メールでお申し込みください。（宛先　amalove.a.lab@gmail.com）

３　本展の見どころ

⑴「オンライン」の時代に視覚の可能性を問う展覧会

コロナ禍において「オンライン」での交流が増えるなか、視覚以外の感覚が閉ざされた状態の時、視覚の頼りなさを感じることがあるのではないでしょうか。作品を見ながら、目に見えるもの以上のものを感じてください。

⑵ 今注目を集める新進アーティスト３名が参加

令和３（2021）年に京都市京セラ美術館ザ・トライアングルで個展を開催した加納俊輔、令和３（2021）年に岡本太郎現代美術賞に入選した堀川すなお、令和４（2022）年に三越コンテンポラリーギャラリーで個展を開催し、メディアでも多数取り上げられている吉野もも。今注目を集める３名によるグループ展です。

⑶ 元公民館の A-LAB ならではの空間で、日常空間とつながる展示

美術館やギャラリーのような展示スペースとは異なる A-LAB で、日常の延長線上に展示される作品をお楽しみください。

４　作家略歴

別紙２参照（A-LAB のホームページにも掲載しています。）

以　上

別紙１

A-LAB における新型コロナウイルス感染症拡大防止策

【来場者へのお願い】

来場者へのお願いとして以下の内容を掲示します。

・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒をお願いします。

・咳・咽頭痛などの症状や 37.5 度以上の熱がある方、帰国後自宅等待機期間内の方の入場はご遠慮ください。

・エレベーターの使用は移動に制約のある方のみ使用していただくようお願いします。

・場内では間隔を広げてご鑑賞ください。

・鑑賞中に大きな声での会話はご遠慮ください。

・基本的に作品にはお手を触れないでください。

・検温機による体温の確認のご協力をお願いいたします。また、一定値以上の発熱がある場合は入場をお断りする場合があります。

・スタッフはマスクを着用して対応させていただきます。

・基本的に荷物のお預かりができません。大きなお荷物はスタッフにご相談ください。

【接触・飛沫感染防止対策】

（入口）

1　入口に消毒液を設置します。

（受付）

2　場内では間隔を広げてご覧いただくようお声掛けするとともに、フロアマーカーを設置します。

3　受付に飛沫感染防止のためシールドを設置します。

4　検温機を設置して来場者の体温を確認します。

（ロビー等）

5　アンケート記入に使用した鉛筆はお持ち帰りいただきます。

（展示室）

6　展示室内は常時換気していますが、可能な限り展示室のドアや窓を開けて換気をします。展示上、ドア、窓を開ける事ができない部屋は 30 分に一回程度、展示室の換気を行います。

（その他）

7　手すり、ドアノブ、エレベーターのボタン、テーブルなどを適宜殺菌消毒します。

8　トイレの洗面に使い捨てペーパーを設置します。

【スタッフの健康管理】

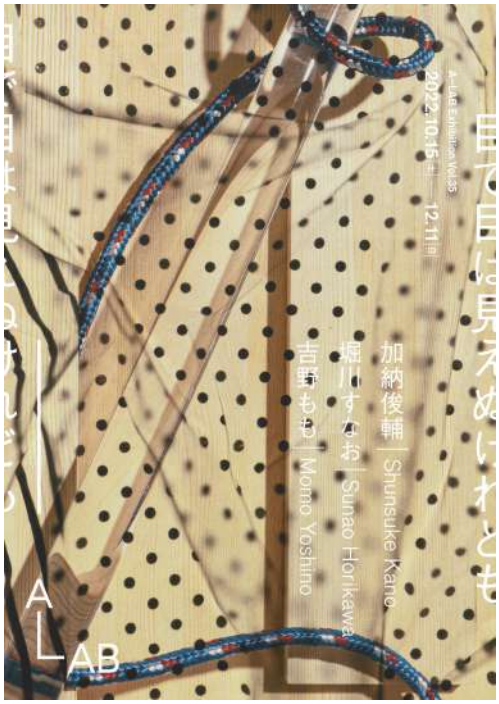
1　毎日スタッフの検温を行います。

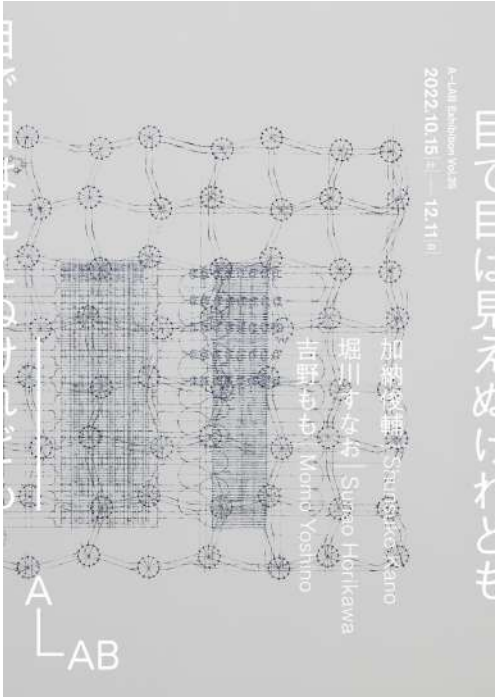
2　スタッフはマスクを着用し、手洗い・手指の消毒を徹底して実施します。

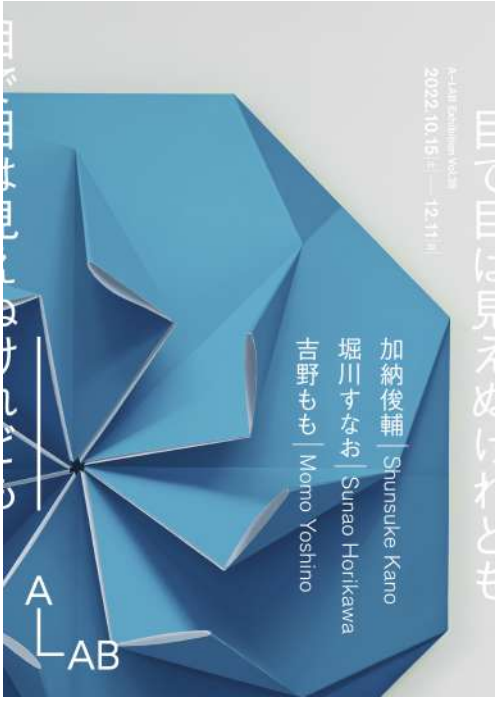
以　上

A-LAB プレスリリース

別紙２







フライヤーデザイン：貞雄大

会　　期	2022 年 10 月 15 日(土) ～12 月 11 日(日)
開 館 時 間	（平日）午前 11 時～午後 7 時
	（土・日・祝日）午前 10 時～午後 6 時
会　　場	A-LAB（えーらぼ）
	尼崎市西長洲町 2-33-1
休 館 日	火曜日
入 場 料	無料
主　　催	尼崎市
協　　力	Maki Fine Arts 、 rin art association、 Baycom

開催要旨

私たちは普段、どのように、どれくらい、なにを見て、そこからなにを感じて生きているでしょうか。自分が自分だけでは存在しないのと同じで、私たちは自分の目でなにかを見ているようで、自分の目だけでなにかをとらえることは難しい。必ず他者の影響を受けていて、また自分自身も他者に影響を与える要素の一部であるのでしょう。自分と世界の境界線の曖昧さは、自分の姿もぼやけさせてしまう。実は視覚はそんなに頼れるものではないのかもしれない。目に見えるものがすべてではない。「目で目は見えぬ」けれども、この世界の中に自分は確かに存在している。この展覧会で、加納俊輔、堀川すなお、吉野ももの 3 名の作品を通して、自分と世界のつながり、目に見えるもの以上のなにかを感じていただけると幸いです。

みどころ

「オンライン」の時代に視覚の可能性を問う展覧会

コロナ禍において「オンライン」での交流が増えるなか、視覚以外の感覚が閉ざされた状態の時、視覚の頼りなさを感じることがあるのではないでしょうか。作品を見ながら、目に見えるもの以上のものを感じてください。

今注目を集める新進アーティスト3名が参加

令和3（2021）年に京都市京セラ美術館ザ・トライアングルで個展を開催した加納俊輔、令和3（2021）年に岡本太郎現代美術賞に入選した堀川すなお、令和4（2022）年に三越コンテンポラリーギャラリーで個展を開催し、メディアでも多数取り上げられている吉野もも。今注目を集める3名によるグループ展です。

元公民館のA-LABならではの空間で、日常空間とつながる展示

美術館やギャラリーのような展示スペースとは異なるA-LABで、日常の延長線上に展示される作品をお楽しみください。

関連イベント

トークイベント

11 月 27 日 ㈰ 午後 2 時～午後 4 時、美学・感性学を専門とする近畿大学 文芸学部 文化デザイン学科准教授の岩城覚久氏と、追手門学院大学 社会学部 社会学科教授の松谷容作氏をゲストに迎え、出展作家とのトークイベントを開催いたします。各々の作品やゲストの研究分野について紹介いただいた後、視覚を通じた感性のあり方やその変化についてディスカッションいただく予定です。

定員先着 15 人。メール（amalove.a.lab@gmail.com）で申込必要。

関連イベント

岩城覚久 Iwaki Akihisa

近畿大学文芸学部文化デザイン学科准教授

専門：感性学

共著書に『Virtual Images:Trilogy of Synthetic Realities(Buechner-Verlag)』などがある。

松谷容作 Matsutani Yosaku

追手門学院大学社会学部社会学科教授

専門：美学

共著論文として『Living Images,Inert Humans:Vitality of the Images Appearing in Chromatophony and A Wave(The proceedings of The Sixth Transdisciplinary Imaging Conference:Dark Eden)』などがある。

【トークイベントに参加申込する場合】

※関連イベントはすべて参加費無料です。

申込みはメールでA-LABへ。イベント当日は直接会場（A-LAB）へお越しください。メールでお申し込みの場合は、下記メールアドレスまでイベント名・氏名・年齢・電話番号・人数を明記ください。

A-LAB メールアドレス

amalove.a.lab@gmail.com

詳細は A-LAB ホームページ（http://www.ama-a-lab.com）をご覧ください。

広報用画像

- このプレスリリースに掲載されている画像データ（※11 ～ 15 ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。
- 下記の使用条件をご了承の上、A-LAB までお申し込みください。
- 使用条件 ：広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットをご表示ください。
- トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
- アーカイブのため、後日掲載紙、URL などをお送りください。

以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

尼崎市文化振興課（平日 8 時 45 分～午後 5 時 30 分のみ）

担当：金子松、原田

電話 06-6489-6385 ／ FAX 06-6489-6702

A-LAB（火曜日休館） 担当：八木、高岡

電話 /FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

作家略歴

■加納 俊輔（かのうしゅんすけ）

撮影：迫鉄平

1983 年 大阪府生まれ。
2010 年 京都嵯峨芸術大学大学院芸術研究科修了。
現在、 京都在住。

写真（を撮る／を視る）を主なメディアとして扱い、 イメージと物質の関係性についての考察を軸に、「視る」という体験を捉え直す試みとして平面、 立体、 映像と多岐の表現形態で展開している。

【受賞歴】
2021「Kyoto Art for Tomorrow 2021 ー京都府新鋭選抜展ー」朝日新聞社賞
2011「第 15 回岡本太郎現代芸術賞展」入選
2011「CANON: 写真新世紀 2011」佳作 / 清水穣 選

【主な個展】
2021「サンドウィッチの隙間」、 京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、 京都
2021「滝と関」、 Maki Fine Arts、 東京
2021「圧縮トレーニング」、 clinic、 東京
2020「カウンタープログラム」、 Art-Space TARN、 奈良
2019「Abandoned In Da Streetz」、 y gion、 京都
2018「Pink Shadow」Maki Fine Arts、 東京
2018「stone age in the woods」、 RC Hotel、 京都
2017「Riverside Time」、 MSC ギャラリー同志社女子大学京田辺キャンパス、 京都
2016「コンストラクション断面」、 Maki Fine Arts、 東京
2016「Floating Fountain」、 space_inframince、 大阪
2015「Cool Breeze On The Rocks」、 Maki Fine Arts、 東京
2014「ファウンテン マウンテン」、 Maki Fine Arts、 東京
2014「ジェンガと噴水」、 shiseido gallery、 東京
2013「バウムクーヘンとペタっとした表面」、 Maki Fine Arts、 東京
2011「ワープトンネル」、 Gallery PARC、 京都

【主なグループ展】
2021「Kyoto Art for Tomorrow 2021 ー京都府新鋭選抜展ー」、 京都文化博物館、 京都
2021「Super-fine」、 イルミン美術館、 ソウル、 韓国
2021「Moving Images」、 EUKARYOTE、 東京
2021「eeny, meeny, miny, moe | green」、 eN arts、 京都
2020「踊り場と耕作」、 HOTEL ANTEROOM GALLERY9.5、 京都
2020「音羽川百景 2020」、 音羽川砂防ダム周辺、 京都
2020「Winter Show」、 Maki Fine Arts、 東京
2019「MOT アニュアル 2019 Echo after Echo：仮の声、 新しい影」、 東京都現代美術館、 東京
2019「フライング・ヴンダーカンマー」、 toberu、 京都
2019「POSTERS」、 複眼ギャラリー、 大阪
2019「THE COPY TRAVELERS の A 室」、 galerie16、 京都
2019「雲型定規がヤマをはる」、 Sprout Curation、 東京

作家略歴

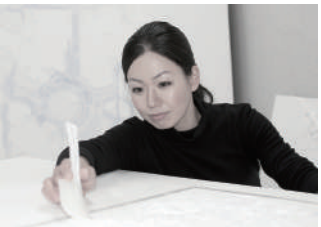
2018「音羽川百景」、音羽川砂防ダム周辺、京都
2018「早川祐太 × 高石晃 × 加納俊輔 [三つの体、約百八十兆の細胞]」、FLAG STUDIO、大阪
2018「鉄道芸術祭 vol.8 超・都市計画 ～そうなろうとする CITY ～」、アートエリア B1、大阪
2018「WALKING, JUMPING, SPEAKING, WRITING」、SeMA STORAGE、ソウル、韓国
2018「The Scrap 2018」、Culture Station Seoul 284、ソウル、韓国
2017「VOCA 展 2017 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち」、上野の森美術館、東京
2016「AKZIDENZ」、青山｜目黒、東京
2016「PAT in Kyoto」、京都市美術館、京都
2016「水に浮かんだフォーシーム」、eN arts、京都
2016「ストーブリーグ 2016」、Division、VOU、京都
2015「藪の中」、Galerie Aube、京都
2015「SHASHIN! Japanese Photography Then/Now」、Sotheby's Hong Kong Gallery、香港
2015「早川祐太 × 高石晃 × 加納俊輔 [三つの体、約百八十兆の細胞]」、500m 美術館、北海道
2015「How to draw the line」、Maki Fine Arts、東京
2015「写真の使用法ー新たな批評性に向けて」、東京工芸大学中野キャンパス 3 号館ギャラリー、東京
2015「THE COPY TRAVELERS by THE COPY TRAVELERS」、NADiff gallery、東京
2014「TOKYO 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS #2」、yellow Koner pompidiou、パリ、フランス
2014「架設｜この物質はイメージです」、京都精華大学 T-101、京都
2014「これからの写真」、愛知県美術館、愛知
2014「助手展 2014」、武蔵野美術大学 美術館・図書館、東京
2014「eeny, meeny, miny, moe｜red」、eN arts、京都
2014「Winter Show」、Maki Fine Arts、東京
2013「:No subtitle」、HAGIWARA PROJECTS、東京
2013「Actual Exhibition #2」、TURNER GALLERY、東京
2013「AT PAPER. Exhibition"09"」、HOTEL ANTEROOM GALLERY9.5、京都
2013「Light & Blindness」、Maki Fine Arts、東京
2012「かげうつし – 写映・遷移・伝染 –」、@KCUA、京都
2012「横浜フォトアートコレクション」、横浜ホームコレクション、神奈川
2012「加納俊輔 × 高橋耕平『パズルと反芻』" Puzzle & Rumination"」、island MEDIUM, NADiff window gallery, 実家｜JIKKA、東京
2012「SHOWCASE#1 curated by minoru shimizu」、eN arts、京都
2012「Emotion Release :reprise」、成安造形大学ギャラリーアートサイト、滋賀
2012「第 15 回岡本太郎現代芸術賞展」、川崎市岡本太郎美術館、神奈川
2012「Redefining the Multiple:13 Japanese Printmakers」、Ewing Gallery, UT Downtown Gallery、テネシー、アメリカ
2011「加納俊輔 × 高橋耕平『パズルと反芻』" Puzzle & Rumination"」、Social Kitchen, LABORATORY, Division、京都
2011「CANON: 写真新世紀 2011 東京展」、東京都写真美術館、東京

【上演作品】
2015「山びこのシーン」、京都芸術劇場 春秋座、京都

【パフォーマンス】
2015「味の断面」、旧所沢市立第2学校給食センター（引込線 2015 展覧会会場）、埼玉

作家略歴

■堀川 すなお（ほりかわ すなお）



2008 年　クーパーユニオン芸術大学交換留学、 ニューヨーク
2010 年　京都精華大学 芸術学部造形学科洋画専攻 卒業
2012 年　京都市立芸術大学美術研究科絵画専攻油画領域 修了
2015-2016 年　平成 27 年度 ポーラ美術振興財団在外研修員としてニューヨークにて滞在制作

私たちは世界をどのように捉えているのか、
そして他者とどのように捉えた世界を共有しているのかを、 描くことを通して探っている。

【受賞歴】
2017「清流の国ぎふ芸術祭 ART AWRD IN THE CUBE 2017 」 入選
2015「群馬青年ビエンナーレ 2015」 奨励賞

【主な個展】
2021「分かろうとしようとする行為」、東大阪市文化創造館、 大阪
2021「解釈と行為 SEEING AND PRACTICING#3」、 ex-chamber museum、 東京
2020「解釈と行為 SEEING AND PRACTICING#2」、 FINCH ARTS、 京都
2019「Sunao Horikawa Window Display Work」、 ポーラ ザ ビューティー銀座、 東京
2018「観察と記録 OBSERVATION AND RECORDATION」、青春画廊、 京都
2016「ある視点 A Certain Point of View/ PONT15」、 FINCH ARTS、 京都
2016「The thing」、 Studio 32、 ニューヨーク、 アメリカ
2015「解釈と行為 SEEING AND PRACTICING」、大阪府江之子島文化芸術創造センター Room.2、 大阪
2014「クリテリオム 87 堀川すなお」 、 水戸芸術館現代美術ギャラリー第 9 室、 茨城
2009「descriptive geometries」、Kodama Gallery、 京都

【主なグループ展】
2022「DRAWINGS」、 ex-chamber museum、 東京
2021「Kyoto Art for Tomorrow 2021 京都府新鋭選抜展、 京都文化博物館別館、 京都
2021「Symptoms」 アートスペース感、 京都
2020「3331 ART FAIR / 3331 art chiyoda」、 東京（高橋瑞木氏推薦）
2020「Rolin' Rolin' / FINCH ARTS」、 京都
2019「チョウカイホウセイサクシツ」、 京都駅ビル、 京都
2019「京都アートラウンジ」、 スターバックス コーヒー 京都三条大橋店 B1、 京都
2019「Still Life & paper works」、 ex-chamber museum、 東京
2019「Exploring - 共通するものからみつける芸術のかけら」、江之子島文化芸術創造センター enoco、 大阪
2019「BRICK -KEIKO SATO TRIBUTE EXHIBITION-」、 Art Spot Korin、 京都
2019「"Painting made" 2019 FINCH ARTS Summer show」、 FINCH ARTS、 京都
2019「Mechanical Sensations」、 A/D gallery (ROPPONGI HILLS ART&DESIGN STORE、 東京
2019「ARTIST FAIR KYOTO 2019」、京都府京都文化博物館 別館、京都 (塩田千春氏推薦
2019「ここが浄土か。」、 FINCH ARTS、 京都
2018「未完の庭、 満ちる動き」、 青森公立大学国際芸術センター青森、 青森

作家略歴

2018「ARTIST FAIR KYOTO2018」京都府京都文化博物館 別館、京都（塩田千春氏推薦
2018「ART TOKYO」、東京国際フォーラム、東京（ポーラ美術財団より参加
2018「ポーラミュージアムアネックス展」、ポーラミュージアムアネックス、東京
2017「OPEN HOUSE」、青春画廊、京都
2017「清流の国ぎふ芸術祭 ART AWRD IN THE CUBE 2017」、岐阜県美術館、岐阜
2017「echo of the echoes」、西武渋谷店 B 館 8 階 美術画廊・オルタナティブスペース、東京
2016「THE OPENING/ PONT15」、FINCH ARTS、京都
2016「QUESTION of the FUTURE 京都精華大学卒業生ファイル 2016 —未来の問い」、京都精華大学ギャラリーフロール、京都
2016「作品中！アゲイン」、ギャラリー 16、京都
2015「Art Court Frontier 2015 #13」、Art court Gallery、大阪（吉岡恵美子氏推薦）
2015「京銀コレクションの 15 年」、京都銀行 金融大学校 桂川キャンパス 大ホール、京都
2015「群馬青年ビエンナーレ 2015」、群馬県立近代美術館、群馬
2014「木津川アート 2014~ 百年の邂逅 ~」、木津川市旧漁業組合事務所、京都
2013「科学のあとに詩をかくこと」、京都精華大学 7 号館 7-23 ギャラリー、京都
2012「VOCA 展一新しい平面の作家たち 2012」、上野の森美術館、東京（高橋瑞木氏推薦）
2012「アートアワードトーキョー丸の内 2012」、行幸地下通路・ギャラリー、東京
2012「視域」、京都精華大学 7 号館 7-23 ギャラリー、京都
2011「G tokyo 2011」、森アーツセンターギャラリー、東京
2011「作品中！」、ギャラリー 16、京都
2011「ignore your perspective 11」、Kodama Gerelly、東京
2010「蓄積による絵画」、ギャラリー 16、京都
2010「DON'T FREEZE」、くずはアートギャラリー、大阪
2010「三人展」、京都市立芸術大学小ギャラリー、京都
2008「Method for seeing distant place 展」、ART SPACE 其の延長、京都
2008「NEW WORK」、グレートホールギャラリー、ニューヨーク、アメリカ
2008「POP exhibition」、ギャラリー RAKU でのサテライト . バー超能力、京都
2008「opening no selection」、バー超能力、京都
2008「Method for seeing distant place 展」、ART SPACE 其の延長、京都

作家略歴

■吉野 もも（よしの もも）

撮影：大森大祐

1988 年　東京都生まれ。
2012 年　多摩美術大学 絵画学科 油画専攻　卒業
2014 年　イギリス ロイヤルアカデミースクール ファインアート科　交換留学
2015 年　東京藝術大学大学院 美術研究科 油画専攻 修士課程　修了

視覚的な仕掛けを利用した描写で、絵画とその周りの環境との関係性を探究する。折り紙をモチーフに、まるで立体的にそこに在るかのように精緻に表現した「Kami」シリーズや、空間を拡張するかのように奥行きや立体感を創りだす壁画、インスタレーションなどの制作を行う。

【受賞歴】
2015「TURNER AWARD 2014」未来賞
2015「神山財団芸術支援プログラム第一回卒業成果展」神山賞
2014「TURNER AWARD 2013」未来賞
2012「多摩美術大学卒業制作」福沢一郎賞
2012「GTS AWARD」奨励賞
2009「via art 2009」KURATA 賞

【主な個展】
2022「Make It Simple」、三越コンテンポラリーギャラリー、東京
2018「being」、rin art association、高崎
2017「Link」、西武渋谷店 全館プロモーション、東京
2017「Metamorphose」、SHOWROOM、台北
2015「Transformation」、Hasu no hana、東京
2013「間」、Hasu no hana、東京
2013「空と実（くうとじつ）」、Gallery APA、名古屋

【主なグループ展】
2021「Encounters in Parallel」、ANB Tokyo、東京
2021「アルスくんとテクネちゃん　パラレル・アートパーク」、バーチャル渋谷区立宮下公園
2020「天王洲アートフェスティバル」、天王洲、東京
2020「アートプロジェクト高崎」、高崎、群馬
2020「nine colors XⅣ」、西武渋谷店美術画廊、東京
2019「画のなかとそと」、ANA インターコンチネンタルホテル東京、東京
2019「正しい歪み方」、KOGANEI ART SPOT シャトー 2F、東京
2018「多摩美術大学助手展」、多摩美術大学アートテーク、東京
2017「A LITTLE WEIRD」、ISETAN The Japan Store Kuala Lumpur、クアラルンプール
2016「台湾・日本・現代絵画の未来と可能性」、東京藝術大学大学美術館陳列館、東京
2016「nine colors X」、西武渋谷店美術画廊、東京
2015「黄金町通路　再訪」、黄金町 高架下スタジオ Site-A ギャラリー、神奈川
2015「PAPER DRAWINGS」、ギャラリーなつか、東京
2015「シブヤスタイル vol.9」、西武渋谷店美術画廊、東京

作家略歴

2013「吉原芸術大サービス」、吉原神社他、東京
2013「ハギエンナーレ 2013 “Third Life”」、HAGISO、東京
2013「CONSTELLATIONS」、blanc gallery、マニラ、フィリピン
2012「黄金町バザール 2012」、黄金町、神奈川

【アーティストインレジデンス】
2019「Luxelakes A4 Art Museum」、成都、中国

【パブリックコレクション】
神山財団
ガトーフェスタ ハラダ

【コミッションワーク】
2021 TOKYO TORCH Park、路面ペインティング
2021 TOKYO TORCH 常盤橋タワー、作品設置企業オフィス、壁画、川崎
2018 企業サロン、作品設置、東京

参考図版

1

2

3

4

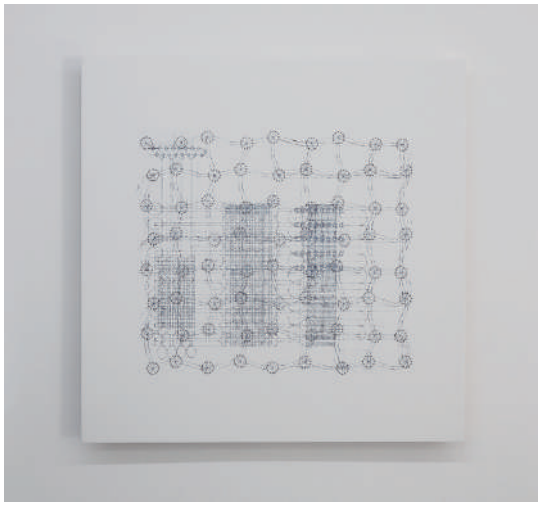
5

6

参考図版

7

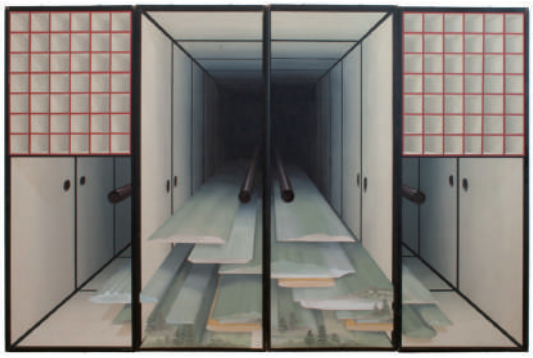
8



9

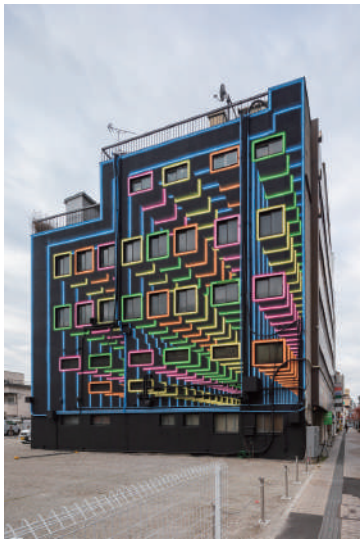
10

11



12

参考図版

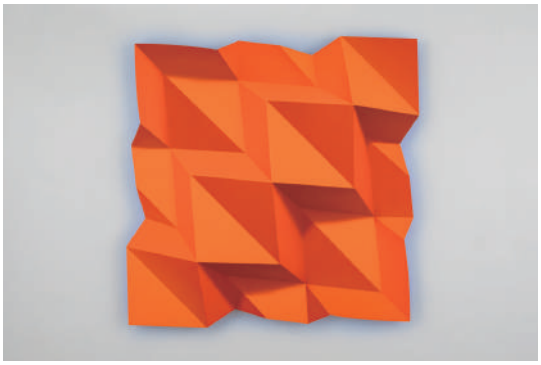


13

14

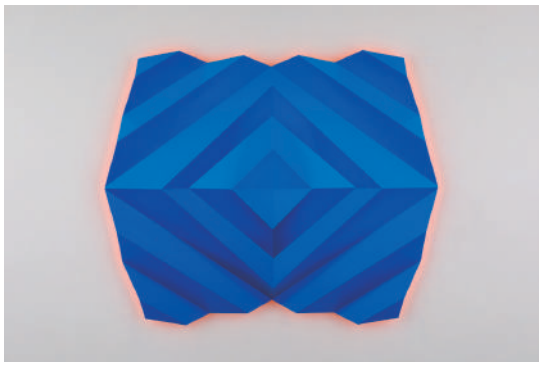
15

15



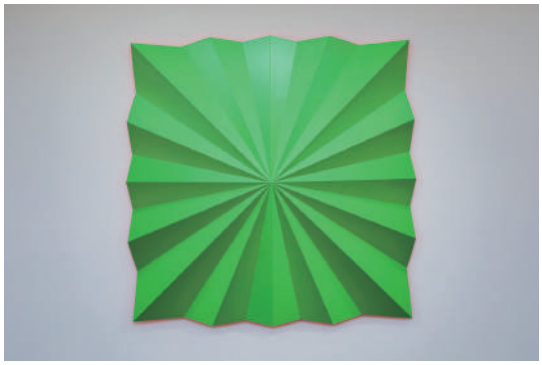
16

参考図版



17

18



19

19

19

20

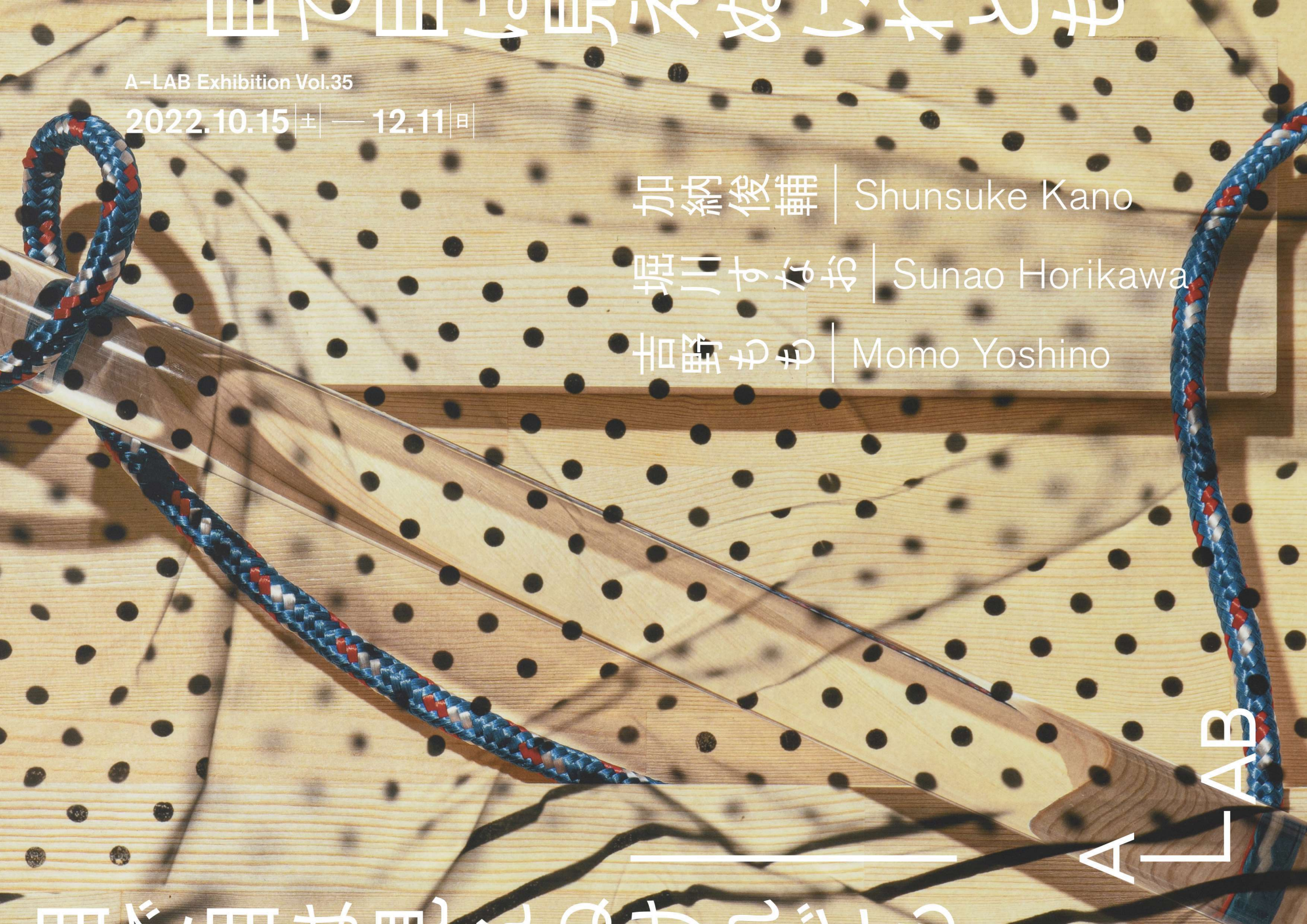
参考図版

1. 加納俊輔 ｜『Pink Shadow_40』｜2021
2. 加納俊輔 ｜『Pink Shadow_42』｜2021
3. 加納俊輔 ｜『Pink Shadow_43-72”』｜2021｜撮影：来田猛
4. 加納俊輔 ｜『Pink Shadow_23』｜2020
5. 加納俊輔 ｜『Pink Shadow_23』（部分）｜2020
6. 加納俊輔｜『Cool Breeze On The Rocks_03(tango)』｜2021｜撮影：来田猛
7. 加納俊輔｜『layer of my labor_123(drawing, patty on stone)』｜2021｜撮影：来田猛
8. 加納俊輔｜『圧縮トレーニング _DSC6540』｜2021｜撮影：来田猛
9. 堀川すなお｜『バナナ #553. “バナナ #3.(28)F. 観察；日本人 #1” google 翻訳、 読み；トルコ人／トルコ共和国 (33)#1F.2010-11』｜2020｜撮影：前谷開
10. 堀川すなお｜『ラグビーボール #1.18.5..10 + Sof Ｉ Har. 触一目 . Org: Top』｜2019｜撮影：表恒匡
11. 堀川すなお｜『ラグビーボール #1.18.5..10 + Sof Ｉ Har. 触一目 . Org: Top』（詳細）｜2019｜撮影：表恒匡
12. 吉野もも ｜『間』｜2013
13. 吉野もも ｜『Enlighten a city through History』｜2020｜高崎｜撮影：木暮伸也
14. 吉野もも ｜『Kami #6 』｜2015
15. 吉野もも ｜『Kami #62 -swirling water-』｜2020｜撮影：関根梓
16. 吉野もも ｜『Kami #69』｜2021｜撮影：木暮伸也
17. 吉野もも ｜『Kami #71』｜2021｜撮影：木暮伸也
18. 吉野もも ｜『Kami #73』｜2021｜撮影：木暮伸也
19. 吉野もも ｜『Kami #88』｜2022｜撮影：木暮伸也
20. 吉野もも ｜『Rivers Crossing』｜2021｜TOKYO TORCH Park｜撮影：川瀬一絵

次回展

「はしもとみお個展　いきものたちとのくらし」（仮称）
会期：2023 年 1 月 4 日（水）ー 1 月 29 日（日）

幼少期から10代を尼崎で過ごした木彫作家、はしもとみおの個展を開催します。　尼崎のまちや、　自然のなかで暮らすいきものたちの様子をお届けします。


A–LAB Exhibition Vol.35
2022.10.15 | 土 | — 12.11 | 日 |
加藤俊輔 | Shunsuke Kano
堀川すなお | Sunao Horikawa
吉野ももの | Momo Yoshino
A–LAB

山や山と眺めをめぐれば

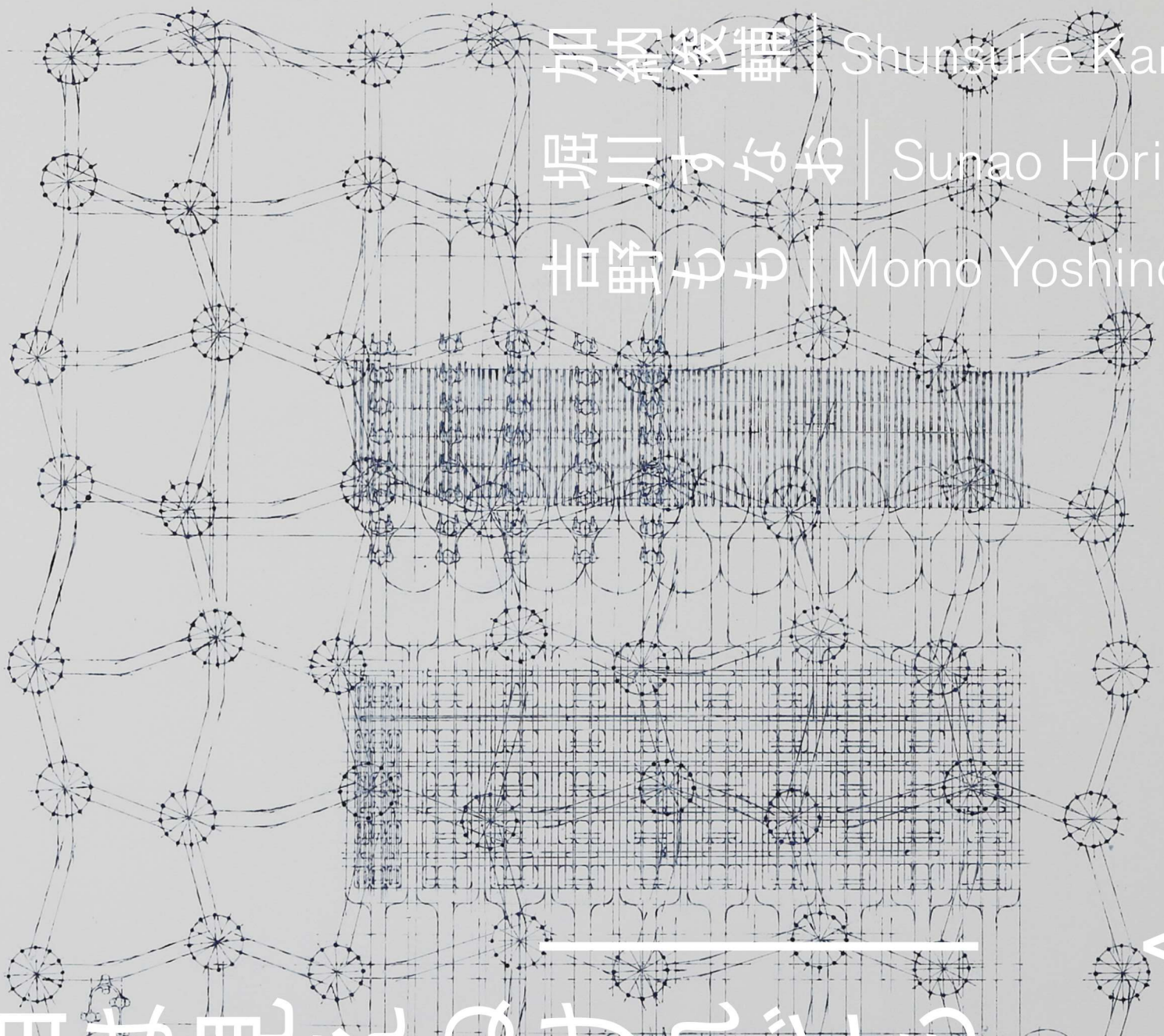
A−LAB Exhibition Vol.35

2022.10.15 |土| — 12.11 |日|

加納俊輔 | Shunsuke Kano

堀川すなお | Sunao Horikawa

吉野ももの | Momo Yoshino



A−LAB

紙や紙と戯れるひと

A-LAB Exhibition Vol.35

2022.10.15(土) — 12.11(日)

加納俊輔 | Shunsuke Kano

堀川すなお | Sunao Horikawa

吉野ももこ | Momo Yoshino

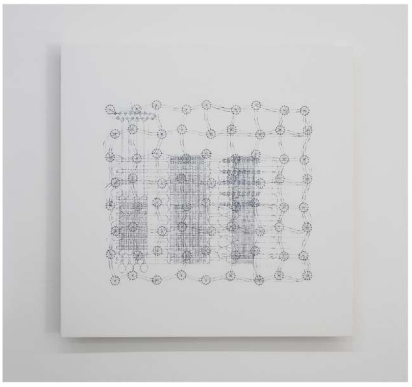
A-LAB

目で目は見えぬけれども

A–LAB Exhibition Vol.35　2022.10.15｜土｜ — 12.11｜日｜ 平日：11:00–19:00 ／土日祝：10:00–18:00［休館日：火曜日］

私たちは普段、どのように、どれくらい、なにを見て、そこからなにを感じて生きているでしょうか。
自分が自分だけでは存在しないのと同じで、私たちは自分の目でなにかを見ているようで、
自分の目だけでなにかをとらえることは難しい。必ず他者の影響を受けていて、また自分自身も他者に
影響を与える要素の一部であるのでしょう。自分と世界の境界線の曖昧さは、自分の姿も
ぼやけさせてしまう。実は視覚はそんなに頼れるものではないのかもしれない。目に見えるものが
すべてではない。「目で目は見えぬ」けれども、この世界の中に自分は確かに存在している。この展覧会で、
加納俊輔、堀川すなお、吉野ももの３名の作品を通して、自分と世界のつながり、目に見えるもの
以上のなにかを感じていただけると幸いです。

1


2

3

1
加納俊輔｜Shunsuke Kano

1983年大阪府生まれ。2010年京都嵯峨芸術大学大学院芸術研究科修了。現在、京都在住。主な展覧会に、「サンドウィッチの隙間」京都市京セラ美術館ザ・トライアングル（2021）など。写真（を撮る／を視る）を主なメディアとして扱い、イメージと物質の関係性についての考察を軸に、「視る」という体験を捉え直す試みとして平面、立体、映像と多岐の表現形態で展開している。

2
堀川すなお｜Sunao Horikawa

1986年大阪府生まれ。2012年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画領域修了。2015–2016年ポーラ美術振興財団在外研修員としてニューヨークにて滞在制作。主な展覧会に、「分かろうとしようとする行為」東大阪市文化創造館（2021）など。私たちは世界をどのように捉えているのか、そして他者とどのように捉えた世界を共有しているのかを、描くことを通して探っている。

3
吉野もも｜Momo Yoshino

1988年東京都生まれ。2015年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士課程修了。主な展覧会に、「Make It Simple」三越コンテンポラリーギャラリー／東京（2022）など。視覚的な仕掛けを利用した描写で、絵画とその周りの環境との関係性を探究する。折り紙をモチーフに、まるで立体的にそこに在るかのように精緻に表現した「Kami」シリーズや、空間を拡張するかのように奥行きや立体感を創りだす壁画、インスタレーションなどの制作を行う。

1：《Pink Shadow_40》インクジェットプリント・木材、500×400mm、2021
2：《バナナ #553. “バナナ #3.（28）F. 観察；日本人 #1” google 翻訳、読み；トルコ人／トルコ共和国（33）#1F.2010-11》
　顔料・ダンマルワニス・テレピン・オイルパステル・タルク・合成樹脂塗料・綿布・シナランバーパネル、60×60cm、2020［撮影：前谷開］
3：《Kami #62 -swirling water-》アクリル絵の具・パネル、120.6×119.6cm、2020［撮影：関根梓］

トークイベント
11月27日｜日｜14:00–16:00
美学・感性学を専門とする近畿大学文芸学部文化デザイン学科准教授の岩城覚久氏と追手門学院大学社会学部社会学科教授の松谷容作氏をゲストに迎え、出展作家とのトークイベントを。定員先着15人。メール（amalove.a.lab@gmail.com）で申込必要。
なお、新型コロナウイルス感染症の状況によってはイベントを延期・中止することがあります。最新の情報はホームページをご確認ください。

A–LAB

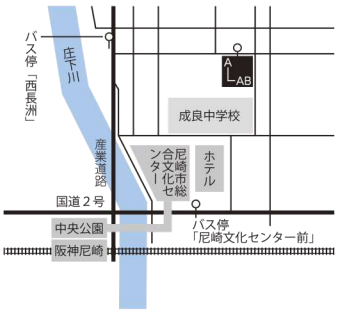
住所：
尼崎市西長洲 2-33-1
会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先：
市役所文化振興課 06-6489-6385
A–LAB Tel./Fax. 06-7163-7108

@amalove.a.lab
www.ama-a-lab.com

Sponsor/Partners: Baycom
Maki Fine Arts, rin art association

開館時間：
平日：11:00–19:00
土日祝：10:00–18:00

休館日：火曜日

A–LABでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策に取り組んでいます。ご来場に際して、マスクの着用や手指の消毒など、皆様のご協力をお願いいたします。取り組んでいる拡大防止策についてはA–LABのホームページなどでご覧いただけます。